

平成28年8月18日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成28年8月18日(木) 午後3時00分
場所	教育委員会室
開会	午後3時00分
閉会	午後4時07分
出席委員	
教育長	加藤裕之
委員	雁部隆治
委員	阿部博道
委員	坂根慶子
委員	浅松三平
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	後藤隆宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岸川紀子
教育委員会事務局参事 (すみだ教育研究所長事務取扱)	高橋宏幸
学務課長	須藤浩司
指導室長	月田行俊
生涯学習課長	岡本香織
スポーツ振興課長	佐久間英樹
ひきふね図書館長	石原恵美

2 議題について

(1) 議決事項

上程事項なし

(2) 報告事項

第1 墨田区登録無形文化財の認定解除及び感謝状贈呈について

第2 緊急用船着場整備工事に伴う鐘淵球技場及び鐘淵野球場の利用休止について

第3 教育課題の進捗状況について

3 会議の概要について

教育長 ただ今から教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は阿部委員にお願いします。本日は、報告事項3件を予定しております。

報告事項第1・・・資料P1

「墨田区登録無形文化財の認定解除及び感謝状贈呈について」、生涯学習課長が資料のとおり説明する。

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

坂根委員 保持者の磯貝庫太さんの「甲心」というのは、どういうことですか。

生涯学習課長 号のことです。

報告事項第2・・・資料P2

「緊急用船着場整備工事に伴う鐘淵球技場及び鐘淵野球場の利用休止について」、スポーツ振興課長が資料のとおり説明する。

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

浅松委員 この期間の学校関係の大会等の代替はできているのですか。

スポーツ振興課長 河川敷には、大人用のサッカーグラウンド2面と子ども用サッカーグラウンド2面があります。部活動等では、子ども用サッカーグラウンドを使用していて、今回利用休止となるのは、大人用サッカーグラウンドです。影響は最小限に抑えられると思います。

雁部委員 工事終了後、鐘淵球技場あるいは野球場の改修計画はないのですか。

スポーツ振興課長 実は少し改修をしています。緊急船着場を中央にするため、球技場と野球場の位置を少し横に移動する必要があり、昨年中にバックネットを移動しました。しかし、1つ懸念しているのは、この緊急船着場の周りにフェンスを直角に張るという工事計画になっていることです。仮に、この角の部分に向かって、野球・サッカーで走り込みをした場合は危険であるため、この角の部分について少し隅切りをしたり、クッション材を取り付けたりといった加工を施すようお願いしています。最終的には、十分安全性に配慮したものが完成すると思っています。

坂根委員 荒川リバーステーションの完成は来年の6月ということですが、その前に災害が起きた場合には完成前でも使用するのですか。

スポーツ振興課長 災害が起きた際に、利用に耐える土台ができていれば利用できると思います。ただ一般論で考えると、施工の確認が終了していない段階で、利用することはないと思います。

教育長 平成26年と27年にも工事を実施していますが、区民の方への周知は行っていますか。

スポーツ振興課長 実際利用している団体には、既に情報提供しています。

浅松委員 利用休止期間中は、その場所に入れないようにするといった対策はしているのですか。

スポーツ振興課長 過去2年間の例から、資材置場として仮囲いをしますので、必然的に侵入することはできなくなります。

報告事項第3・・・資料P3

「教育課題の進捗状況について」、所管課長が資料のとおり説明する。

庶務課長（学校ICT化の推進について説明）

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

阿部委員 21世紀型スキル研修というのは、簡単にいうとどのようなものですか。

庶務課長 ある単元の教材について、子どもたちがより深い理解を得るためにはどのようにすればよいのか、例えば、国語の単元であれば、ある読み物を題材にして、これをICTで掲示するとい

うことだけではなく、子どもたちが能動的に考えて正しく知ろうとすることがより深い理解につながるのではないかと、ということ民間会社等のプログラムに従いながら実践してみることに、通常の授業とは違った角度からの教え方について学ぶことができる研修です。

阿部委員 何か資料を見れば、載っているようなものですか。

庶務課長 インテルのTeachプログラムで検索すると見ることができます。次回、資料を用意して、具体的に説明させていただきます。

浅松委員 おそらく、新しい学力観に基づくものだと思うのですが、この21世紀型スキル研修は今年からのものですか。

庶務課長 昨年から実施しています。

坂根委員 電子黒板等の設置は、夏休み中に終了するのですか。

庶務課長 終了する予定です。

坂根委員 今の進捗状況は、どのくらいですか。

庶務課長 設置は既に終了しており、調整している段階です。

浅松委員 推進授業・公開授業を秋に実施するのは、今回導入する小学校のみですか。

庶務課長 今回は小学校19校ですが、2年間の整備校ということで、中学校も入ります。まとめ次第、一覧表を作成しますが、考え方としては、整備校について、2年間は公開授業を実施するというので、進めています。

教育長 この研修の出席者について、各学校1名ずつ受講しているのか、それとも希望制なのか、その資料を作成してください。研修受講後、学校内で他の教員にどのように還元していくのが重要になると思いますので、別途、報告してください。

すみだ教育研究所長（すみだ教育指針の策定について説明）

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

（質疑・意見なし）

すみだ教育研究所長（学力向上新3か年計画の実施について説明）

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

浅松委員 都の学力調査が4月に実施され、対象が2年生だったと思います。これについては12月頃に、かなり詳細な分析と授業改善のコメントも含めて冊子として配布されたと思うのですが、その活用はどうなっていますか。区の調査の方がいいのですが、都の調査は授業改善のために非常に工夫されたものなので、それが管理職からどのように教員や各教科にデータも含めて周知されているのかといった実態を掴んでいるのでしょうか。

すみだ教育研究所長 都の学力調査については詳細な分析で、厚い報告書が挙がってきています。私共も、大分参考にさせてもらっています。各学校にはこれをしっかり分析するように話をしています。区の学習状況調査をもとにPDCAサイクルを回していますので、PDCAサイクルを都の調査でも回してしましますと、混乱してしまう恐れがあります。区の立場としては、区の学習状況調査をメインにPDCAサイクルを2回、前期と後期に回して分析し、あわせて都の調査を参考にできるところは参考にすることとしています。そういったところでは、その冊子の状況分析については、具体的にどこまで活用するかということまでの踏み込んだ依頼はしていません。区の調査の課題として挙がっているところは、都の調査の課題として挙げるところとかなり重なっています。

教育長 今の内容は、PDCAサイクルを作成したときに、区の調査を基準にしているが、途中で都の調査結果が出るから、違ったものがあればそこに踏み込んでいった方がよいという趣旨ですよ

ね。P D C Aサイクルではなくて、そういうことは学校に指示していますよね。学校に渡す際には、再度活用するように指示してください。

浅松委員 区の調査を補足するものもあるし、実際はかなり具体的な授業改善の方法もあるので、当然それを意識してP D C Aサイクルを出せると思います。

すみだ教育研究所長 学校には、しっかり伝えていきたいとします。

教育長 後期計画については、ヒアリングにより、従来よりも具体的なものに取り組んでいます。工夫しているところはどのようなところですか。

すみだ教育研究所長 小学校では学級担任、中学校では教科担任の授業改善ヒアリング調書を全教員に作成してもらっていたのですが、A B C D Eの分布人数を書く欄がありませんでしたので、小学校では学年の中でA B C D Eの分布状況等を教科ごとにしっかり書かせて、課題となる単元の分析をしっかりさせて、より精密に書くように調書を変更しました。このような工夫の中で、教員の意識啓発を強めていきたいと考えています。今までの反省点としては、各教員の授業改善ヒアリング調書1枚で済ませていたのが、非常に項目欄が少なかったので2枚、3枚と増やす形でしっかり書いてもらうようにしました。また、教職員研修室の方で巡回指導を行っていますので、そちらにも情報提供しながら、今欠けているところについての活用方法も含めて、うまく対応してもらいたいと思います。さらに、指導室にも情報提供し、指導主事が学校訪問した際にも十分活用してもらえよう連携を取っていきたいとします。

教育長 個別に授業改善ヒアリング調書を作成するという事は、教員の負担を増やすということではなく、教員が自分の授業計画を意識するような形での項目を増やしたということによろしいですか。

すみだ教育研究所長 そうということです。

教育長 今まで、何パーセント上げます、というようになっていたのを、自分のクラスに35人いれば、そのうちの5人を、といったように人数を明確にして、何割だとか何パーセントだとかになってしまうと漠然としてしまうところを、目標を明確にヒアリングで入れてもらうということ、また、昨年から制度が変わらない、学力が上がらないやり方については改善してもらうということによろしいですか。低迷しているところは、昨年や一昨年と同じやり方では結果は変わりません。ただ、必ず効果が上がるというようなことがあれば、ヒアリングの中で無理に変えてもらうというようなことはないのですが、同じやり方では学力が上がらないというのであれば、それを見直さないといけません。それも学校の方で、今回は抽象的に学校全体で「このようにやります。」というの必要ですが、むしろ、個々の教員が何をやるかというところに、力点を置いているということによろしいですね。

すみだ教育研究所長 毎年授業改善ということは実施しており、こう直すとか、授業でこういうことをするとか、書いてもらっているのですが、そのようなことを、昨年1年間実施して、昨年の区の学習状況調査と今年の区の学習状況調査の結果を見比べた時に、改善されていないところについては、再検討をお願いするということも考えています。結果的に全然伸びていないといったところは、改善されていないと思われるため、統括指導主事の視点からもアドバイスし、再検討をお願いすることを考えてします。

教育長 それは横軸の話だけではなく、前の学年からの縦軸の話も考慮して計画を立てるとのことです。

すみだ教育研究所長 (幼保小中一貫教育の推進について説明)

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

坂根委員 幼保小中一貫教育と関連するのですが、昨日、BSのプライムニュースに前教育委員の鈴木みゆきさんが出ていて、アメリカで行われた就学前教育のことなども紹介されました。教育経済学の専門の方も出ていて、これからの幼保小中一貫教育に関して、指導要領も変わったことにも触れ、現在は保育士と幼稚園教諭の8割くらいは両方の資格を持っている状況であり、その中で教育の基本的なところをひとつにするという話がありました。その辺のことも幼保小中一貫教育の中で、課題として取り上げる必要があると考えます。

すみだ教育研究所長 今までの進め方として、就学前教育については、小学校の先生にも参加していただきながら、幼稚園・保育園の先生方にも入っていただいて、就学前計画の冊子を作成して周知をしています。あくまでも就学前教育というのは、今までのスタンスですと小学校に入学するまでにどこまでをやってもらおうかという幼稚園・保育園の分限の中でということ動いていた節があります。幼保小中一貫教育の推進ということでは、幼稚園・保育園と小学校の接続の部分と、小学校と中学校の接続の部分ということで、独立してやっていたという反省点はありますが、来年幼保小中一貫教育の計画も見直しますので、その中でその辺の活用の仕方といったところも含めて、整理したいと思っています。

坂根委員 結局、幼稚園・保育所から小学校に入学する段階での連携が必要でしょう。最近、小学校の先生も幼稚園・保育所の授業参観、幼稚園・保育所の先生も小学校の授業参観などしています。全体の意識として非常にその教育が大事だということを保護者も含めて、特に小学校の先生が意識するよう、情報提供の必要があると思います。

教育長 幼保小中ですと、「すたーとブック」が一定の効果があると思います。「すたーとブック」で「小学校に入学する前にこういうことを準備してください」ということであるとすると、あれを幼稚園・保育園で共有してもらい、そこを目指してやっていくというのも幼保小中一貫教育の推進の成果ということでは大きいと思います。今までは、小1問題や中1ギャップで幼保小中というのは墨田の課題としてありましたが、今度は中学校スタートも視野に入れていくということにしています。英語教育とかで、中学校から小学校で何をやればよいのか、小学校から幼稚園・保育園で何をやればよいのかという教科の連携も考えています。算数を幼稚園・保育園でやるのかというと、それはまた違った話になってくると思いますので、坂根委員のご意見も含めて見直しもありますが、修正しながらやっていきたいと思っています。

雁部委員 幼保小中一貫で大事なことは、地域の方の協力だと思います。幼保小中は1つの区域でやっていく訳ですから、繋がりを持つというのは地域の方の力が重要になってくると思いますので、学校は学校でと別にやるのではなく、幼稚園・保育園あるいは小学校の交流する場の地域の方にも手伝っていただいて、一緒に子どもたちを育てていくというスタンスが必要だと思います。できるだけ地域の方と情報交換をして、一緒に育てていくという形にしていっての方がやりやすいのではないかと思います。

すみだ教育研究所長 そのことについては、改めて各ブロックに周知したいと思っています。地域と学校のあいさつ運動もやっていますし、保育園の子どもが中学校に行きあひさつをする際に保護者も一緒に行くとか、小学校に中学校の生徒が行きあひさつする時に保護者も一緒にやろうとか、そういったところで地域の方々も意識しながら動いていただいているブロックが結構出てきています。そういったところにも意識するように学校にも周知していきたいと思っています。

阿部委員 小学校と中学校の子どもたちが交流する際、もう少し学力の面、理科や社会の教え方を

先生が連携して学力向上に結びつけられないかと思います。実践的に、単なる交流だけではなく学力にプラスになるように、うまく小学校から中学校に段差が生じないようにそういう連携を工夫された方がよいと思います。

すみだ教育研究所長 ブロックの方でもそういうことを意識しています。東吾孺小学校があるブロックでは、中学校の先生が指導案を作成する際に参加したり、お互いに授業を見合っ、て、小学校の教えているところはここまで、中学校に入るとこういうことになってきてというように、算数などは系統性があるところですので、そういったところを意識した教え合い活動というようなことは結構多くのところでやっています。豎川中学校のブロックでも、教科ごとに部会を完全に分けて、お互いに小学校のカリキュラムではこうなっている、中学校ではこうなっているということで、お互いにやっているところが分かるようにしています。自分の学校での授業もあるので、できる限りでよいので連携をとって、お互い授業を見合ったり、指導案を作成する際に知恵を出し合ったりといったことをお願いしているところです。本所中学校ブロックでも、英語を軸とした幼保小中一貫教育を考えていますので、英語の先生に小学校に行ってアドバイスしてくださいとお願いしています。ブロックごとで各教科についてバラつきがあるので、そういったところの強化、小学校の教育課程、中学校の教育課程の違いを意識しながら、お互いの授業を見合うとか、検討し合うといったところは進みつつあると認識しています。それをどこまで加速していくかということが課題だと思っています。

教育長 今まで幼保小中連携というのは、学校の方に実勢を重んじていたというのがあります。外から見るとなかなか進まないということがありましたが、今後教育委員会で、今行われている考え方を土台に、すみだ教育研究所にも入ってもらい、実勢を重んじつつ支援したいと思います。今回小学校で英語教育が教科化されますので、その軸を作成し、どこまでやっていくのかという話になってくると思いますが、それを軸にして他の教科に広げていきたいと考えています。ただ、中学校の英語の先生が小学校で教えられるかということ、中学校の教員は中学校の免許の範囲内で青年心理の範囲内なので、児童心理とか、教え方についても小学校の発達段階の話があるので、小学校の先生が自分のところで噛み砕かないと中学校の先生が来てくれたとしても100%いいよという話になりません。東京都教育委員会でも小学校の先生が英語の免許を取得するような支援をしたりしています。いずれにしても中学校の先生が教科を教えに来ればよいという話ではなく、小学校の先生も理解していかなければいけないということで、また違った問題が英語でもあるのですが、今回英語が新しい教科としてありますので、それを節として広めていきたいと考えています。

坂根委員 英語の授業をいくつか見ており、先生の教え方について申し上げます。中学校の場合、伝統的な英語教育の範疇から抜け出られない人もいるし、きちんと音声学から始めて非常に授業効果を上げている人もいて、学校によって差がありました。それに加えて小学校のNTの先生の場合は、英語教授力とは別に小学生に対する教育力が異なっており、子どもに教えられる先生とそうではない先生ではずいぶん違いました。日本の小学校教員のように一定の資格がある訳ではないので、NTの場合は差があるということも含めて全体から考えるとよいと思います。

教育長 ネイティブが来た場合には、その人に任せるのではなく、学校がリーダーシップをとらないと、効果が上がらないと思います。それに関して、研修を始めているのですが、まだまだといったところです。東京都でもマニュアルを作成しているのですが、定着するにはもう少し時間がかかると思います。

坂根委員 どうしても日本の学校の枠の中で考えてしまっているようです。私も教員を対象にした

外国語活動の研修に行ってみたのですが、「掲示物を英語で何と言うか」というような質問が日本人の教員から出ます。実は掲示物に対応するような特別な英語はありません。それが言えないとコミュニケーションが出来ないと考えている方もいるようです。一般の先生で英語教諭の資格やそれに準じた英語力がある方は多くはないかと思いますが、それより日本語での発想やコミュニケーション力から変えていかななくてはいけないと強く感じています。

教育長 今後教科化となると、3・4年から外国語活動が始まります。そうすると5・6年のものをそのまま使用すればいいというものではなく、発達段階も違うし、まして日本語が完成していないのに英語教育を行っていかねばならないので、その辺のスキル等は東京都からも情報を得ながら実施していきたいと思います。

坂根委員 先程、雁部委員もおっしゃっていた幼保小中一貫教育には地域の力が大事だというのは、特に幼保の場合は非常に大事で、家庭教育・地域・学校のうちでかなり大きな割合を占めているということを認識する必要があると思います。

浅松委員 幼保小中一貫教育の見直しを来年度実施するということでしたが、私もそうした方がよいと思います。フォーラムでの発表等を聞いていますと、教科における連携や意識した小中の9年間というスパンの中での指導の在り方を研究しているところは、2校くらいだったと思います。こういう連携止まりになっています。先のことを考えた際に子どもたちにどういった力を身に付けさせるかといった視点では、真剣に義務教育の段階でどういう教育をしたらよいかという、その辺を大所高所から見ながら、小さく見れば毎日の自分の授業の中で、中学校であれば小学校でこのような教科書を使って、今日単元で教えるところは小学校でここまで行っているというところを把握したうえで、ICTも活用しながら、いくらでも工夫して出来るので、区中研の活動も含めて教科の部分で改善は図れると思います。

スポーツ振興課長（(仮称)総合運動場等整備事業について説明）

教育長 ただいまの説明について、何かご質疑・ご意見はありますか。

（質疑・意見なし）

その他1・・・資料なし

スポーツ振興課長 リオデジャネイロオリンピックが開催中ですが、墨田区ゆかりの方が出場されています。新体操の種目で、フェアリージャパンというチーム名で日本代表が出場しています。その一員として、横田 葵子（よこた きこ）さんという選手がいるのですが、この方が区立両国中学校の出身です。新聞によると、現在19歳、国土館大学に通われています。区としては、先般横田選手のお父様に区長室の方にお越しいただき、区長と区議会議長が激励の言葉と区としての御祝いを渡しました。また、所管としては、横断幕を4枚作成し、区役所1階のアトリウムに1枚と墨田区総合体育館の外階段に1枚掲出しています。残りの2枚については、出身の両国中学校に寄贈して、現在掲出されています。今回本人はご多忙のため来庁していただけませんでした。オリンピック終了後、表敬訪問という形で来庁していただきたいと考えています。総務課のオリンピック・パラリンピック担当とも調整しながら進めていきたいと思っています。なお、19日から21日にかけて個人戦・団体戦が開催されるということです。

その他2・・・資料なし

浅松委員 8月16日に区で行っている中学校の第三寺島小学校で行われたすみだチャレンジ教室

を見てきました。NPOのこのような形で教育委員会が主催して運営するというので、初めて見たのですが、学生が子どもたちに対して指導している様子に、かなり訓練されていると思いました。しかし、中学校は定員が60名のところ、来ていたのは48名だったと思います。実際には、予算上60名の枠があったのにも関わらず、これは中学校の方で希望している保護者レベルで、定員を事前テストの結果で48名に落としているのでしょうか。あるいは、それほど要望自体がなかったのか、と気になりました。また、実際には学力定着に非常に課題があって厳しい子ども、つまり、本来ならば補習、個別指導が必要な児童・生徒については、学校の夏季休業中の補習の時間を計画的に学校がきちんと行うべきだと思います。その辺りの連携については、どのようになっているのか気になりました。チャレンジ教室は区の方で、学校へ一任するというようにしか見えませんでした。教えている際に学校の教員がアドバイスをし、それを教育委員会と学校も絡めながら取り組むといった連携が必要ではないでしょうか。チャレンジ教室を見ている教員もほとんどいませんでしたし、管理職も、もしかしたらどこかで見ているのかもかもしれませんが、どなたもいませんでした。私が校長でしたら、自校の子どもたちがこんなふうに学んでいるのか、では、実際休み明けには学校としてもどのように取り組んでいこうとか、そういった連携が出来ると思います。色々と言いましたが、最初の部分について説明をしてください。

すみだ教育研究所長 ご指摘のとおり、定員60名のところ48名の参加でした。夏休みチャレンジ教室は中学校1年生・2年生を対象として各中学校に通知を出して、その段階では40名にも足らなかったもので、その後、個別に全学校、特に課題がありそうなところへ重点的に募集をかけて10名増やしました。学校側としては、お盆の時期ということもあり、生徒がなかなか集まりにくいという話がありました。現在、第三寺島小学校と横川小学校でチャレンジ教室を行っています。こちらについては、定員を超える人数の応募がありました。各25人ずつのところ30人を超える報告がありました。これにより、中学校の方で余剰となった先生を小学校の方へ回してもらえないかお願いをし、3名と2名の計5名を増やしました。中学校については、学校を通じて再度お願いをしましたが、結果的には生徒の参加を増やすことはできませんでした。来年度は、もう少し強く呼びかけをしていきたいと考えています。また、学校の先生がチャレンジ教室とは別に、夏休みの補講を自主的に実施している学校がほとんどです。チャレンジ教室を見に来られた先生もいらっしゃいましたが、私の知る限りでは1人でした。

教育長 勉強が分からなくなったので来たという子どもというのは、やる気がある子であって、きっかけづくりだったり、モチベーションを上げたりといったことがあるのですが、勉強が不得意であるにも関わらず、チャレンジ教室に来ないという子どもはかなりいると思います。そのような子どもたちをどうしたらよいのか、教育委員会として考えなければならないと思います。浅松委員が言うように、教員が対応しなければならない話になってくるとは思いますが、今後、子どもたちのモチベーションを高くしていかないと、やる気は出ないと思います。何もしなければそれで済んでしまうこともあるので、モチベーションを上げることと呼びかけをすることは勿論なのですが、教員たちにもチャレンジ教室や学校の補習など、新計画で色々出してもらっている中で、大きく変えることは難しいので、軌道修正をしていくような形で少しずつ取り組んでいこうと考えています。徐々に取り組んでいくといっても「卒業」という時間の制約もありますので、出来る限りスピードを上げていきたいと思っています。しかし、そうは言っても今までのやり方もあるので、学校へあまり介入してもやる気がなくなってしまうといけないので、バランスを取りながら、迅速に進めていきたいと思っています。

坂根委員 私は、8月15日に中学校、16日に第三寺島小学校と横川小学校を参観しました。中学生は英語と数学に熱心に取り組んでいました。小学校は算数だけでしたが、小学校と中学校の違いの1つとして挙げられることは、小学校の方は子どもたちが沢山、発言をしていました。それに比べて、中学校になるとほとんど話をしないで授業を受けていました。おそらく中学生の場合は、教科ごとの授業で分からないとほとんど下を向いていると思われます。小学5年生では、クラスの中であまり話をしなくても、まだ小学校の段階なので先生に色々言ったりして、和気藹々といった感じでした。2年経って、中学1年生になるとさらに話をしなくなるようになり、段々と分からなくなっていくように感じましたが、チャレンジ教室を通じて、出来ないことが出来るようになったということは、児童生徒の学習意欲にとてもよい影響を与えていると思います。

阿部委員 私も中学生のチャレンジ教室を拝見しました。気になったのは数学で、分数の割り算が中学2年生で分かっていなくて、小学校の学習に戻って勉強している子もいました。もし、小学校の基本的なことが分からないままで、中学校で数学を学んだとしても全然分からないと思います。さかのぼって簡単なところだけでもきちんと理解しておけば、段階的に進めていけるのに、どこかでつまづいてしまうとそれが原因で中学校の数学がずっと分からなくなってしまうのではないかと思います。チャレンジ教室に来ていた子どもたちは、それを分かってもらう子どもなのでいいのですが、分からないまま投げ出してしまっている子どももかなりいるのではないかと思います。中学校の先生が見れば、小学校のどこの段階でつまづいたのか分かると思うので、それを小学校に上手く伝え、準備を怠らない形で中学校へ上がれるようにしてあげたら、子どもたちもやる気が出るのではないかと思います。今回、区役所で開かれたチャレンジ教室に参加した子どもたちを、区長が参観するなどして褒めてあげるようなことができないかなと思いました。せっかくの夏休みに、チャレンジ教室へ参加したということで評価してもらえたら、きっとやる気も出るのではないかと思います。

教育長 チャレンジ教室に参加した子は、出来ないことをどうにかしようとしているのでよいのですが、必要なのに参加しないという子がかなりいると思います。そこが学校の教員が取り組んでいかなければいけないところだと思います。東京都のベーシックドリルというのがあり、どこが分からないのか、そこに戻ってやり直すというようなものがあります。ただ、かなり数が多いので、子どもたちにそれをやりなさいと言っても、おそらく出来ないと思います。そこを学校が、モチベーションを上げることに絡めて、どのように取り組んでいくのか、日々の補習も必要になってくると思いますので、学力向上のヒアリングの際に併せて聞くようにしていきます。チャレンジ教室の目的は、分かる喜びを知って、ステップアップするということです。これで全てが解決するとは思っていませんので、このような形で進めていきたいと思っています。

○ **教育長** 以上で、教育委員会を閉会します。